

令和3年度 第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和3年6月24日（木）
◎開催日時 令和3年6月29日（火） 午後3時30分～5時
◎場所 伊那市役所 庁議室
◎出席委員 笠原教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員、黒河内教育委員
◎欠席委員 なし
◎出席職員 馬場教育次長、福澤学校教育課長、北林生涯学習課長、早川市誌編さん室長、
小松指導主事、福與指導主事、伊藤教育総務係長、大日野美篤小学校長、子ども相談係三澤相談員、子育て支援課長

1 開 会

教育次長

定刻となりましたので、ただいまから今年度第1回目の総合教育会議を開催してまいります。
始めに白鳥市長からご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ

市長

今週末からまたかなり雨が降る、そうした中で、災害に対する子どもたちの取り組みということも、先日の高遠の総合防災訓練の中で、高遠小学校の子どもたちがZoomを使って気象庁からのいろんな事例の話、また建築士会の皆さんから洪水時はこうなる、床下浸水になったらどうなるかという具体的な話を聞いて大変勉強になったと思います。それを見ながら思ったのは、伊那市内の子どもたちがみんなこうしたことで、勉強できれば尚いいなと思いましたが、なかなかそうも行かないのですが、今の時代、Zoomを使ってやればそうした時間もできるのかなということで、勉強した子どもたちは助かったけど勉強しない子どもたちが、災害に遭ったということがないように配慮しながら学習の場を広げてもらいたいと思います。今日もまたいくつかございますのでスピーディーな進行でよろしくお願いします。

馬場教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

笠原教育長

本日は第1回の伊那市総合教育会議、ぜひよろしくお願いします。常々この会は教育委員会にとって大変大事な会であると思っています。市長と思いや願いを語らうことができ、また整備された資料等を基にした現状把握に立って、課題について考えることができる非常に貴重な機会だなと思います。

例えば新型コロナウイルス対応についても、私ども、そこに本質と日常ということ置き込みながら考えておるわけですが、そうした点についても、市長とともに考えることができるこの機会を大事にしたいなと思います。

本日は何点にも及びますけどぜひよろしくお願いします。

馬場教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。
ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) 令和3年度伊那市教育委員会運営方針について

市長

それでは最初に伊那市教育委員会の運営方針についてということをお願いします。

教育長

令和3年度伊那市教育委員会運営方針について説明

市長

これはどういう位置付けで、これに基づいて教育委員会が動くということですか。

馬場次長

大元は教育大綱ですが、令和3年度はこれを基に教育行政を進めていくというものです。

(意見等無し)

市長

ご意見等無ければこれに基づいて令和3年度の活動が行われるということですのでよろしくお願いします。

(2) 自宅待機期間中のICTを活用した学習支援について

市長

次に自宅待機期間中のICTを活用した学習支援についてをお願いします。

大日野校長

オンライン事業事例報告について説明

市長

6ページの校長先生の話飛ばしたので、ぜひ生の声をお願いします。

大日野校長

最後の方でお話しましたが、今回の事例は足助先生、GIGAサポーターを始め、伊那市教育委員会の本当に手厚い支援体制があったからこそ実施できたものです。このような支援体制がなかったら、もういくら機器が揃っていても、本当にあの学校の方に色々入れていただいたのですが、実施は不可能でした。

例えば私のような上に立つ者も準備できていなかったり、小学校なので情報の委員も授業を持っていたりしますので、具体的にどうするかとなってしまいます。支援体制がなければ、ここまでできなかったと思いますが、すぐ駆け付けていただきましたので、本当に感謝です。

2つ目は、県の小中、特に校長会の教育課程の委員会の委員になっておりまして、そこでたまたま GIGA スクール構想を踏まえた教育課程の工夫、授業改善をテーマに、小学校の取り組みなどを持ち寄って提案していく委員会がありますので、その場においても、伊那市の状況をぜひ発信したいと思います。

それからコミュニティスクールの学校運営委員会で、今回の事例を報告しましたところ、一定の評価をいただきました。その際に、万が一、全学級でオンライン授業になる時には容量的に大丈夫かなという委員の声がありました。そのあたりは私のところでは分かりませんが、もし分かったら教えていただければと思います。

今回、特に問題は出されませんでした。iPad を本当に自由に使いこなせるように、ただ学校に置いておくだけでは使えないので、家庭に持ち帰った際などの使い方やモラルなどの指導も必要と感じています。

学校教育課長

全学級オンライン授業になった時の容量については恐らく対応できるようになっていると思いますが確認しておきます。

教育次長

キャリアとの契約がありますが、各校 1 ギガまでは出せるということになっていますので十分対応できるという考えで良いです。今後もっと容量が増えてきても対応できるような状況になっています。

市長

今の事例は非常に好事例だと思います。特に転校生の話は非常に良い話だと思います。転校生は伊那市中にいます。そうした時にこういう対応があったということなので、一つの標準としてみんな共有した方が良いと思いますのでこれはぜひ進めてください。

教育次長

情報委員会という会があり、そちらでこの資料で事例紹介をして各校に持ち帰っていただいています。今後も情報共有していきたいと思っています。

教育委員

質問ですが、この3日間のオンライン授業の間に、まず、全員が揃った時間帯が朝の会であったということですが、それ以外の時間では、基本的に参加できない子どもはいなかったという理解でよろしいですか。

大日野校長

はい。ちょこちょこと抜けることはあるかもしれませんが、ほぼ全部揃ったということです。不登校気味のお子さんも、画像で顔を出すのはためらうけれども、音声だけなら良いということで、参加することができて、全員参加することができました。担任もすごく喜んでいましたし、本人もそうだと思います。クラスみんな喜んでいて、本当にありがたかったです。

指導主事

このクラスは Zoom ほぼ繋ぎっぱなしで子どもたちはずっとやり取りできていたので、朝と夕だけじゃなくて授業と、お互いにこれ分からないからとか、話し合いとかほぼ 1 日繋がって

たので細やかになったと思います。

大日野校長

GIGA サポーターの方の話をする中で、視力等のこともあるので、10 分か 15 分使ったらあとは個人で判断となり、私と担任の方でもしっかり確認しませんでした。小松指導主事が言ったように繋ぎっぱなしになったところでは、子どもたちが自由に支援の学級のお子さんも含めて、いろいろやり取りしました。目の疲れが心配だからちょっと 15 分やったら退出しましょう、としていましたが、今のお話の通りです。

教育委員

このクラスともうちょっと範囲を広げてですけれども、今のその視力の問題とか、こういった ICT の機械を使うことが子どもにとって本当にいいのかといったような考え方を持っている保護者の方、いろいろいると思います。

学校全体で見たときには、そういうその技術的にはできても、子どもにあまりタブレットを見せたくないといったようなことであまり協力してくれない保護者の方は結構いらっしゃいますか？

大日野校長

昨年度臨時休業になった時にオンラインをやったのですが、そういう声は上がってきませんでした。

学校教育課長

MAX で市内の全校の児童生徒がつかない場合でも理屈上は対応できるということです。ただ実際にやったことがないのでどんな問題が起こるか分かりませんが、理屈上は可能ということです。

市長

冒頭で話をしたように大事なテーマがあって、全部の学校が会って話しましょうという時にこれを使って全部に知ってもらうことができるなら効果的かなと思います。今後そういう事例があれば、やってみるということも大事なかなと思います。

他にどうですか。

教育長職務代理者

いい事例だったなと思いますが、今回のことを通して、例えば今 2 つの学年のことがありましたが、他の学年であっても、どこであってもすぐ対応できますとなっていますか。

大日野校長

そこまではできていません。今回の事例をもとに繋ぎ方等のノウハウは少しわかったのですが、先生方が授業等もやっているのもまだ私達も含めて、しっかりとしたマニュアルを作るところまでは行っていません。

先日も支援センターの先生とも話をしたのですが、全部のクラスがそうなった場合には、人数的に足りないのも、今回のようなところで学んだらそれを学校の中でも共有してほしいとのことですので、そのような体制で行きたいと思っています。

教育長職務代理人

これだけの実績があるので、これを全校のものにさせていただきたいし、もちろん市内全体でもさせていただきたいと思います。

今回は短期間でしたが、昨年の全校休校みたいなこともあります。そうしたときに授業の内容ですが、時間割を見ると、先ほど図工や理科、音楽など、大変成果があったというとともに、反省もあったと思います。

国語、算数はドリル的で、学びを深めるとか、考えようというところまではまだいってないとすれば、この辺についてはどのようにお考えですか。

大日野校長

国語、算数は特に2年生の担任の話をしました。授業の様子を配信したいけれども1台でしたので、声がなかなか通らなかったり、グループ学習では対応できなかったりということで、その辺りどうしたら良いかということで、マイクをつける、GIGA サポーターと相談して台数を増やす、そういう案を出していただきましたが実際にどこまでそれができるのか、学びが深まるのか、というところはこれからも課題になっていくと思います。

教育長職務代理人

わかりました。美篤小だけでなく、市全体の問題でもあらうと思います。センターもそうしながら、ぜひ考えていきたいとこだと思いました。

市長

タブレットは、私がどうしても広げたかったのは不登校の子どもたちを繋げたいと思ったのがあり、今日の事例発表の不登校の子どもは顔出さないけれども、というのはかなりの進歩だと思います。これを何回かするうちにオンライン上で友達が学校へ来てよ、とか何か言うことになって来ることができれば良いと思います。不登校気味な子どもとタブレットを使ってつなぐ方法は美篤小学校だけではなく、市の中で進めてもらえればありがたいと思います。

教育長職務代理人

こういう取り組みを何回かに渡って積み重ねてきていますが、先生方の研修意欲に関わる部分は校長先生どのように考えておられますか。

大日野校長

本校だけではないと思いますが、本当に ICT を本当にやっていきたいという思いをすごく感じます。ただ、他にも学ばなければいけないこともあり、学ぶ意欲、日常的に ICT を使いたい、そういう声もあるので、研修意欲はあります。さらに高めていきたい先生方の意欲を感じます。

市長

今の話に関連しますが、伊那西小学校と伊那小では AI ドリルを使って授業をしていて、授業が分からなくてボカンとしている子がおらず、分からないなりにみんな教え合ったりして、分からなくて困っている子は先生がタブレットで分かるので、そこに行って上手に教えると詰まっているところが溶けて先へ行くということでありました。

今は試験的にやっていますが、全部の学校に入れてやっていければなと思っています。お金がかかっても、子どもたちの理解度も増して先生の負担がもっと楽になるってことであれば、それは有りだと思っています。

1 年で答えが出るかどうかは別にしても、評価によっては本当に高い効果があるっていうことになれば、これは積極的にやってみたいと思っています。AI ドリルの件だとか、タブレットを活用するスキルを上げるために支援センターの存在、さらに力をつけるとか、今の人数で足りなければ補強する、そんなことをどんどん出してもらえればと思いますので。現場の生の声をどんどん上げてもらうということをお願いをしたいと思っています。

市長

他はどうですか。なければこれについては以上としたいと思います。どうもありがとうございました。

(3) 読み書き支援への取組（M I M）について

市長

次に読み書き支援への取組（M I M）についてお願いします。

三澤相談員

読み書きにつまづきのある児童の早期発見支援事業について資料に基づき説明

教育長職務代理者

先ほど見せていただいたグラフの内容確認ですが、全国平均と比べて読み書きにつまづく子どもさんが伊那市は割と多いとのことですが、原因は何ですか。

三澤相談員

全国平均といっても全国の児童を把握しているわけではなく、M I Mに取り組んだ学校の平均です。その中では比較的多いということで、初めのスタートも、高いことは確かにあります。ひらがな読みの習得では、なかなか読む機会が少なかったり、そこから定着が図れなかったりする実態もあると思います。読みの時間にどれだけ時間をかけるかが大きなポイントになってくると考えています。

LDのお子さんたちは音を取ることに苦手さがあるので、そこに丁寧に向き合って読みの指導をしていかないとそこが改善されないとされていますので、学級指導の中でそこに付き合ひ、その子に自信をもたせていく指導が必要になってくると思います。

市長

伊那市で保育園の子どもたちに日本語の美しさや、童謡のメロディーといったことを教えてもらうということで、由紀さおりさんや、お姉さんの安田祥子さんに来てもらって、毎年保育園を回って話をしてもらっています。その中で「が」と「が」の違いなど、そういうことをずいぶん細かく親御さんや私たちにも教えています。そういうことは結構大事なことだと思います。小さい頃、例えば保育園の頃にお母さんのお父さんが本を正確にきちんと読んであげることができれば、そういう間違いや、理解ができないような子どもは、減ってくるのでしょうか。

三澤相談員

通常学級にいますので、やはり通常学級の担任の先生がこのお子さんには支援が必要だということで見ないと改善はされずに行ってしまうと思います。担任の先生には、具体的にこういう

風にしていこうと提案しながら進めているところです。

教育長職務代理者

検査すると十分でないお子さんがいらっしゃるわけで、その時に担任がどう捉えるかということです。この子はあわてんぼうだからとか、ちょっとした勘違いくらいで、本当にこの子が間違えているのかどうかと言ったら、十分に評価できない、把握できないから指導が続かないことがあるのではないかと思いますかどうか。

三澤相談員

高学年でドロップアウトしてしまうお子さんたちにはこの読みの苦手さがあったという子もいますので、継続して指導していく、時間をかけて手を離さずに、1年から2年、2年から3年に繋げていく、担任が時間をかけて改善していくところに関わっていただけるとありがたいと思います。

市長

担任は結構忙しいとおもいますが、そういう時間を割けるのですか。例えば、そのクラスに3人そういう子がいると分かったとして、その子については専門の先生が教えることの方が良い気がします。担任の先生方が全部カバーするのは難しいと思います。もちろん先生も差があると思います。

三澤相談員

気づきの良い先生で上手にやれる方はいらっしゃいますし、先ほどお伝えした通級指導教室の担当は重たいお子さんたちの指導ですが、その狭間にいるお子さんたちについてはやはり通常学級の先生方が関わっていくので、それは先ほどの改善したクラスでは、全体指導だけではなく、個人学習を学級の時間の中にうまく組み込んで継続して改善を図ってきているので、担任が指導の方法を工夫していくことができるかなと思っています。

市長

先生でなくても、子どもでもできる部分があると思います。AIドリルを使っている子どもたちは、理解の早い子どもは遅れている子どものところに行って、これこうだよって教えています。

発音についてはこうだよというのを、レベルによっては違うと思いますが、場合によっては今のICT教育の中で、子どもたち同士で教えることは可能と思いますが、別に問題ないでしょうか。

三澤相談員

読みにくいお子さんは全体の中で読んでいても実は声を出さないで口だけパクパクしているだけで習得できていない、担任もやっているだろうとのことで、通り過ぎてしまうことがあります。先ほどの学級では交代読みして、友達がちゃんと声を聞いてあげることを、毎日指導に入れて確認して応援していく形でやっていますので、良いことだと思います。

教育長職務代理者

子ども同士でもかなり教え合うのであって自然に学び合う形で良いと思いますが、この辺の実態はどうですか。

三澤相談員

このやり方は、ビデオで各学級先生方に見ていただいて、毎年研修をいただいています。1年生ですので、自分の体を使って音を感じることは、MIMのやり方によって分かるので子どもたちにとってとても分かりやすい方法だと思います。

教育長職務代理者

全部、進めていただきたいなと思います。

市長

特に小学校低学年の頃が大事ですね。

三澤相談員

はい。

教育長職務代理者

同じことが算数でも言えるのですが、1年生のときに繰り上がりの計算をします。「8 足す3はいくつ？」と聞いたら「11」とすぐ出るようにまでならないと、2年生、3年生になってからできなくなってしまう。

ところが、指で数えても答えが出てしまい、それを見逃してしまうとその子は高学年になった時、実際には計算が間違ってしまう、早く出来ない、見通しが持てないことになります。そういう意味で、低学年の時にこうした基礎をしっかりやることがものすごく大事だと思います。

指導主事

学校訪問に行ったのです、そのカードを使って1年生の担任がやっていました。同じように、ひらがなカードは、子ども相談室所管の1年生用に、子ども相談室が作り、全員に持たせています。「あ」なら「あ」と書いてあるその裏に、「あり」というような単語が書いてあります。「先生たちは忙しい。」と市長がおっしゃったのですが、秋頃になると早口ことば検定があり、校長のところへ行って、小学校一年生が早口言葉として言語習得をやるなど、工夫して取り組んでいます。一端の紹介ですが、このMIMも意図的、意識的な学習を科学的な方法で取り入れています。市長がおっしゃった由紀さおりさんの鼻濁音の「が」と「が」についても意図的、意識的な学習を科学的にやっていくことが、このMIMと理解していただけると良いと思います。

市長

担任の先生に任して良いか、心配なことは、先生によっても見逃しがあるわけです。むしろ、学校を回ってMIMの専門家が指導していく方が良いと思います。1人ですよ。

指導主事

三澤先生は低い子をチェックして、この子に対してはこういう指導というようにアドバイスしています。そのために配置していただいて、ほとんどの学校を回っている状態です。

市長

1人で回り切れるのか、その辺はどうですか。

三澤相談員

大きな効果がないとそれまでですが、先生方1人ではどうしたらよいか迷ってしまうことがあります。良い学校の取組情報を共有、お互い1年生の先生方でこのやり方もあるという研修の機会を持ったり、回ったりしています。始めの頃は、このMIMの取り組みに対して、忙しいし、新しいことなんて、という風潮でしたが、9年目になって、ようやく定着してきたと思いますし、長野県全体でも取り組んでいることなので、続けていくことで成果に繋がると思います。

市長

9年やっても毎年新しい子が出るわけです。もうずっと終わりのない話だと思います。子どもたちにしてみると、小さい頃にそういう指導を受ければ、一生の中で助かることにつながります。小学校1年、2年の時にそういう指導する先生を増やすということでも良いと思います。提案型とはそういうことで、一生懸命やって、こういう成果が出ている、もう1人増えるともっとこうなる、という話を出してもらえるとありがたいです。

教育長

先ほど運営方針を見ていただいたのですが、児童生徒の発達状況を踏まえた小学校低学年から、実はですね、中学校期って、今年入れました。読み書き支援事業の推進、これ小松先生と話をして「中学校期」と入れてもいいかと聞いたら、「入れましょう。」と言ってくれました。やはり適切な時期に、適切な支援を受けてないと思います。やはり学年の低いところで、適切に評価をして、支援を入れていくことが大事だということで、今年改めてこのことをすると書かせていただきました。

市長

朝、読書をやっていると思いますが、その時に、静かに読むことも大事ですが、朗読をしながら声を出すといったところで、心配な子どもを見つけるなど、今やっていることの中でも対応可能だと思います。

教育長

その生活記録で担任の先生が手を入れてやることもできます。そういうことも実はとっても大事で、そういう場面を適切に捉えながら、やはり適切な支援をしていくことが大事で、三澤先生が、学校を回りながら具体的なサポートを入れてくださって本当にありがたいと思っています。

市長

もし回りきれないという話であれば、補強すればよく、それで子どもたちが変わってくるなら良いと思います。

他はどうですか。なければ次に入ります。

(4) 伊那市子どもの未来応援事業について

市長

伊那市子どもの未来応援事業が始まりました。これについて今現状どうなっているのかとい

うことを、担当から話をしていただいて、皆さんらご意見をいただければと思います

子育て支援課長

伊那市子どもの未来応援事業について資料に基づき説明

市長

貧困、引きこもり、ヤングケアラーなど、いろいろな実態の話をお聞きしました。今時点では子ども食堂を含めて、こうした取り組みが形になってまいりました。これからの夏休み、長期の休みに向けて準備もしているところです。

子ども食堂を開いているところは、週に1回、土曜日というのが大体相場ですので、それでは足りないということで、この回数を増やしてもらうことと、子ども食堂を開いていない地域については、例えばキッチンカーを回すということでキッチンカーを持っている食堂に話をすると、いくらでも協力するという温かい声もいただいております。それを進めながら、またその中で修正するところがあれば、やっていこうと考えています。このことについてどうでしょうか。

生涯学習課長

公民館で協力できないかという話をいただきまして、協力できることは協力しましょうということで、主事に集まってもらいました。夏休み期間中には、おいで塾というイベントがあり、そこは申し込んだり、おにぎりを持って集まったりする形になっていますので、そういった子どもとキッチンカーのつながりなど、各公民館と調整をしながらやってもらうよう指示しています。

市長

お金を寄付いただける会社も随分ありますので、そうした資金的なものをキッチンカーの皆さんにお渡しして、食材や燃料代などに使ってもらい、食堂などの店を持っている方たちは大変だと思いますが、このように協力してもらえることには感謝です。

教育委員

キッチンカーは業者さんの善意によって、成り立っているということですか。

子育て支援課長

市長から話が行きまして、私どももお願いに上がったところ、僅かですが謝礼、食材費を用意できますという話をしましたが、「そんなものはいらないよ。」とおっしゃってくださいました。それを生業とされている皆さんですし、調理の技も提供していただいているところですので、少しでも支援をしながらやっていただきたいと考えています。

教育委員

継続してやっていただきたいという思いがあります。負担になってくると、今度はできないということもあります。業者さんには、続けていただけるような形で何とか続けていくことができればと思います。

市長

他はどうですか。なければこの件については以上とします。ありがとうございました。

(5) 学校登山について

市長

次は学校登山についてお願いします。

学校教育課長

学校登山の状況について資料に基づき説明

市長

これについて私の方からお話をさせていただきたいと思います。先日の校長会でも話をしました。学校登山がある意味過渡期に入っており、昔のように先生方が率先して何回も下見をして子どもたちを連れて行く時代から、学校登山そのものの経験が少ない、あるいは経験が無い先生方が増えています。特に今回のコロナを機会にもうやめようという動きがありますが、私はそうではなくて、学校登山の役割は大きいと思っています。河野齢蔵の取り組みが何十年も繋がって今日に来ています。確かに途中で箕輪尋常高等小学校の事故もありましたけれども、普段行くことができないようなところをみんなが助け合いながら登っていく、これはぜひ伊那市は継続したいという思いがある中で、ただ現状のまま継続するっていうことは時代の中ではなかなか難しいだろうと思います。今年は学校登山についてよくみんなで考えてもらおう年にしたいと思っています。

学校の先生たちだけではなくて、OBの方もそうですが、例えばガイドの皆さん、登山を引率していた人であり、そうした方そしてあと山小屋ですね、皆さんの意見を聞きながら、来年以降どういう学校登山の姿にしていくのか、ということのをぜひ考える年にしたいと思っています。今年はもうこの状態で私は良いと思います。校長会で話をしたのは、例えば西駒に登るのはもうどこの学校も昔からやっています。あえて西駒の頂上を目指さなくても良いという思いが個人的にあります。

例えば将棋頭、そこに泊まれるだけの学校の皆さんがそこに行けば高山帯の雰囲気味わえるし、遭難記念碑のある濃ヶ池に行くことができます。仙丈ヶ岳は 3000m ですが、気楽で、苦労が少ない、そうすると泊まる場所の話になりますが、仙丈ヶ岳へ行く子どもたちのパーティー、栗沢山に行くパーティー、体の弱い子がいれば仙水峠へ行く子どもたちがいても良いと思います。目標として全員で行くことも好ましいですが、選択もありということで、考えてもらいたいと思います。

安全安心を考えると、看護師がついていますが、看護師の数、それからガイドの数、この何人に対してガイド 1 人っていうことを決めてもらおうと安心でしょうし、消防署の職員も 1 人もしくは 2 人がついていますので、これは継続してもらいたいです。場合によってはドクターがいればいいですが、ドクターが自分のお仕事を休んで、平日に 1 泊 2 日で行くというのは非常に難しいので、山岳看護のできる看護師がいて、救急救命士の資格持っている消防士がいると非常に心強いです。ガイドも何人かいるということも有りと思いますので考えてもらえればと思います。

ただ、登山は不便です。トイレは、用を足して水が流れるような所ではありません。そうしたことを経験することは、自分の人生にプラスになります。災害時だと正にそう。電気が止まった時はトイレは使えません。使えないからもう駄目だということではなくて、知恵を出していくためには経験が大事です。そうしたことのためにも、携帯トイレを使うこと、あるいはパーティーシップというか、仲間が疲れてしまって動けなくなる場合には荷物を分けて持ってあげることはみんなやったことと思います。

こうした助け合いや達成感が経験できれば大変良いことだろうし、そうしたことを今年 1 年かけて来年に向けて検討してもらいたい、というのが学校登山の願いです。好きな先生ばかりではないので教員の負担も考えていく、もう時代はずいぶん変わってきていることも事実ですので、安全で子どもたちにそうした高山帯の異界、別な世界を見てもらうためには、今までにない発想をこれから出していただければと思います。学校登山の話をさせてもらいました。どうでしょうか。

教育委員

市長がおっしゃった通りで、私も連れて行った時に、息子が起きて「トイレに行けない」、「どうして?」、「穴が開いている。」。仕方がないので懐中電灯を照らしてドアを開けたまま、「怖いから照らしていて。」、これからどうなるのだろうと思いました。何を感じて帰って来られるかどうか、自分の中でこれから本当に生きるものになると思っています。

自分の高校時代、毎年夏は山岳気象の研究で、将棋頭などに閉じこもってみんなで気象観測したことを思い出します。そうして得た環境、高山帯の様子は忘れられないし、また行ってみたいということになります。私の弟の時には、伊那中が落雷にあいました。それでも弟は元気に帰ってきました。そんなことを思い出しながら、でも今も弟はあの時の登山は良かった。大変だったけどよかった、良い勉強になったっていうことを言います。だから、そういうこともやっぱり長く考えると大事という気がしています。

市長

実施時期については梅雨の末期が定番ですが、例えば秋の安定した時に行くことも一つかなと思いますので、柔軟な発想で学校登山の伊那らしいあり方を考えてもらいたいと思います。それができると、長野県全体の一つのスタンダードになってくる可能性もあります。どうしようか考えているところが、実施できるとなれば、それは先生というより生徒たちにとっても非常にありがたいことだと思います。ぜひそんな検討会を実施してください。

5 閉会

教育次長

それでは以上をもちまして今年度第 1 回総合教育会議を終わります。お疲れ様でした。